

地域における市民主体の ESD活動から

～ESDの10年を終えて、これからの地域がめざすこと～

NPO法人とよなかESDネットワーク
上村有里

1

ESD(Education for Sustainable Development) とは・・・

- 「持続可能な開発のための教育」の略
- 教育:未来をつくるのは「人」。「人」をはぐくむのが教育。
- 複雑多様化した社会課題を解決するためには、分野や世代を越えてつながり、取り組んでいくための学び(教育)が必要です。
- 多様な価値観をもった「人」が積極的に学び合い、いろいろな視点からものごとを見られるようになることが大切です。

2

「場づくり」「しくみづくり」「まちづくり」

- 2004年 タウンウォッチングからスタート



3

キックオフミーティング

- 2005年2月全国に先駆けて豊中版ESDのキックオフ会議



1. おしゃれで便利なライフスタイルブック
2. とよなか版「世界が100人の村だったら」
3. 赤ちゃんからのESD
4. 人間ピオトープ
5. ESDサロン(ええことしなやかに だめもとで)

4

ESDとよなか事務局・庁内連絡会議

- NPO、財団法人、社会福祉法人、行政の関係課が集まる。
- 環境、福祉、国際、人権、教育など・・
- 地域課題の解決やESDの普及促進につなげる提案。
- 2010年策定の教育振興計画に『人とつながり、未来を切り拓く力』を育む』としてESDの理念を盛り込む。

のちに⇒ESDとよなか連絡会議へ

5

赤ちゃんからのESD

2006年3月にスタート
子育て中のお母さん達が中心になり、日常の子育て環境を見直すことから始めました。



6

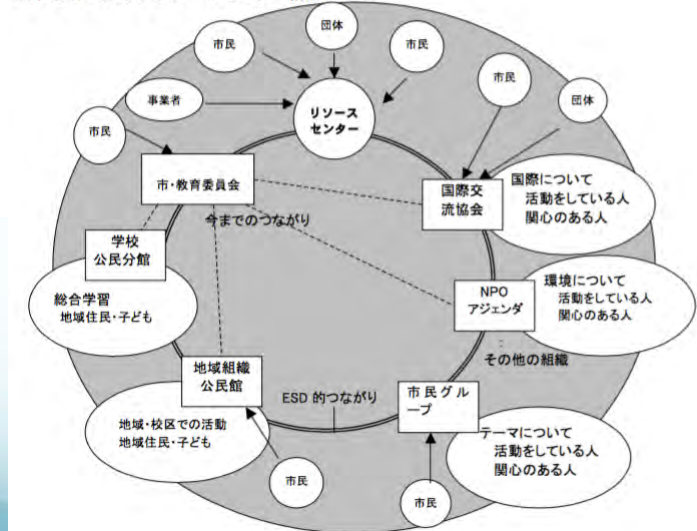
- 2006年度・2007年度環境省ESD促進事業⇒ESDセミナー
- 豊中市国際教育推進協議会⇒ユネスコスクール



7

リソースセンター構想

豊中地域におけるリソースセンター構想とは・・・



リソースセンターWEB

9

10年間の成果

- 団体と行政の連携・つながり・議論の場を持てたこと。
- 各団体がESDの視点を持ち、成長することができたこと。
- ESD的な活動が地域でできたこと。
- 目に見える成果があったこと。
- 10年で終わらずに続けたい方向に向かっていること。

未来につなげるために...

- NPO法人とよなかESDネットワーク設立



市民が主体となって「ESD」を推進していく
しくみづくりが必要

学校教育へのアプローチ



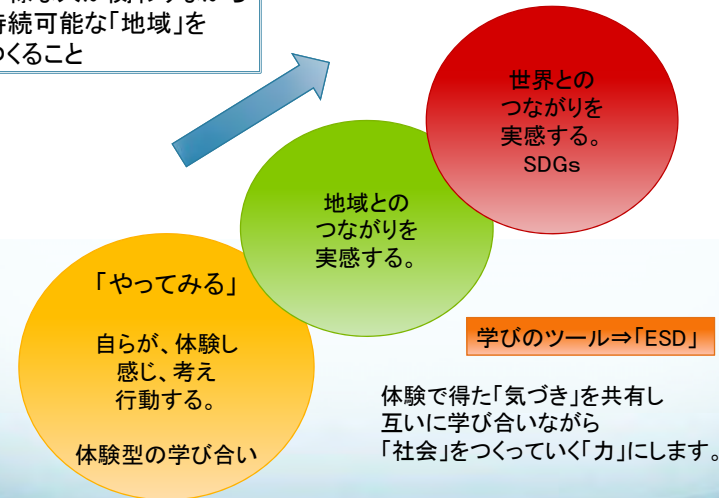
地域へのアプローチ



若者世代へのアプローチ

13

多様な人が関わりながら
持続可能な「地域」を
つくること



14

これからにむけて・・・

- マルチステークホルダーの参加、連携促進
- ESDの学び合いを通じて、地域課題解決につなげる。
- ESDを通じた「協働」と「参画」
- 地域の資源の活用

未来をつくること
「人」を育むこと

